

はじめに：

この度は、VOCU Handmade Distortion をお求めいただき、誠にありがとうございます。VOCU Handmade Distortion は、3種のディストーションタイプから好みの歪みを選択できる、ファットで倍音たっぷりの濃厚ディストーションを作り出すことのできる、ディストーション・ユニットです。ハウリングに対処しやすいハイカットを装備し、柔軟な音色コントロールも行えます。また、基板上のトリマーを調整することにより、歪みを抑えボリュームコントロール可能なオーバードライブのシステムセッティングへ変更することや、クリップパーツの交換で本機の基本音色を変えることも可能な設計になっています。

各部の名称と役割：

① DIO - OA - LED (モードスイッチ)

歪みのモードを選択します。DIO (ダイオードクリップ)、OA (オペアンプクリップ)、LED (LED クリップ) の3種から好みのタイプが選択できます。

② Dist (ディストーション)

本機への入力ゲインを増減させ歪み量を調整します。

③ High Cut (ハイカット)

高域成分を徐々に減衰させるフィルターです。右フルでフィルターは無効になりディストーションで発生された倍音成分がすべて出力されます。音色の好みに関わらず、ハウリングを起こすようであれば、このノブを左方向に回して高域成分を減らしてみてください。

④ Level (レベル)

本機からの出力レベルを調整します。モードスイッチで選択したクリップモードによって出力レベルが異なるので、モードを変更する際には、このノブを左に回してレベルを下げてからモードを変更することをお勧めします。

⑤ Bypass (バイパススイッチ)

ディストーションをオン/オフします。本機はトウルー（機械スイッチによるハードワイアー）バイパスを採用しています。本機の後ろに接続する機器によっては、スイッチング時にポップノイズが発生することがあります。

⑥ Input (インプットジャック)

ギターなどの楽器を直接接続するか、他のエフェクターからのアウトプットを接続します。

⑦ DC 9V ~ 12V (電源ジャック)

VOCU DC Power Plant などの外部パワーサプライからの DC ケーブルを接続します。本機は 9V ~ 12V での使用に耐えることができます。DIO と LED モードでは電圧の変化による音質の差はそれほど大きくはありませんが、OP モードでは電圧の違いによって音色の解像度が大きく変化します。

⑧ Output (アウトプットジャック)

本機からアンプや他のエフェクターのインプットへ接続します。



本機のシグナルの流れと活用のヒント：

本機は、インプットジャックから初段の周波数別ゲインコントロール回路（裏パネルを外すとアクセスできる2つのトリマー）によって基本的な周波数特性を決定し、フロントパネルの Dist ノブでクリップサーキットへのゲインを決定します。モードスイッチによって選択されたクリップ回路によってディストーションを発生させ、High Cut 回路によって高域を制御して、Level ノブで最終レベルを設定します。

Dist ノブによるゲインコントロールは、ある程度まであげるとサチュレート（飽和状態）を起こすほどのゲインブーストをします。特に高域成分が低域成分よりも早くサチュレートを起こす性質を本機は持っているため、歪み量が変わらなく感じたポジションからでも、ゲインをさらに上げることで実際には低域成分が持ち上がってきます。これは High Cut ノブによって高域成分を減衰させたときにはっきり感じることができます。これを体験するために、High Cut ノブをセンター付近にセットした状態で Dist ノブを様々なポジションへセットしてみてください。

パワーユーザー様へ：

トリマー調整

本機は初段の周波数別ゲインコントロール回路（裏パネルを外すとアクセスできる2つのトリマー）によって、Dist ノブによるゲインのセンシティブティーおよび得られる音色を微調整できるように設計しております。

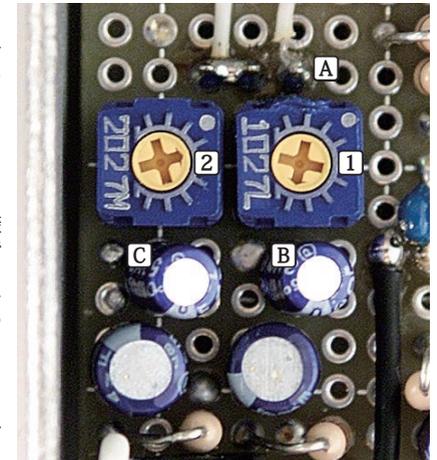
①のトリマーは、高域を他の周波数よりも多くブーストさせるコントローラーです。出荷時には高域を強くプッシュする性質にセットしています。このコントロールを下げる（左方向へ回す）ことで音色はマイルドになり、オーバードライブのような性質へ変化させることが可能です。

②のトリマーは中域を他の周波数よりも多くブーストさせるコントローラーです。このコントローラーは中域を山の頂上としてなだらかに広い範囲の周波数帯のゲインを増減させるため①のトリマーよりも音質の変化は小さく、全体のゲインブーストに関係してきます。出荷時にはほぼ中間的なポジションにセットしています。本機が歪みすぎると感じたらコントロールを下げる（左方向へ回す）ことで Dist ノブで制御できる歪み量を抑えることができます。本機はゲインブースト量の大きいディストーションですから、このコントロールをさらに上げることはあまり意味はありません。むしろ、このコントロールを上げることによって①のトリマーの効果が弱まりますので、むやみ設定を変えることはお勧めできません。

もしも、設定を変更した後に出荷時の状態に戻りたいのであれば、テスターを使って以下の部分の抵抗値を計って、記した抵抗値へセットしてください。

トリマー①：計測ポイントAとB、抵抗値 20 Ω

トリマー②：計測ポイントCとD、抵抗値 1.2k Ω



クリップパーツの交換

本機は、すべてのクリップパーツが交換できるように設計されています。パーツ交換はソケットへのパーツの抜き差しだけなので、様々なパーツの交換を試みてはいかがでしょうか？

パーツ交換時の注意

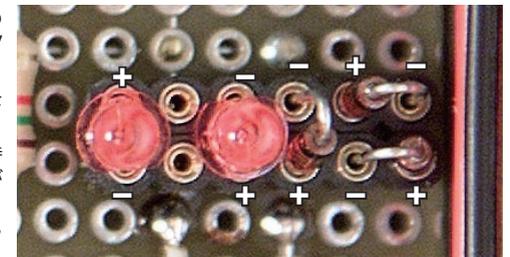
オペアンプを交換される場合には、オペアンプの向きに注意してください。ソケットの欠けている向きにオペアンプのマーキング側をセットしてください。

LED は電圧の低いものほどクリップレベルが下がります（低レベルで早く歪みはじめる）。出荷時には約 1.5V の LED が装着されています。装着可能な LED 電圧は 1.5V ~ 3V 程度です。

なお、装着の方向は右の写真のようにプラスとマイナスを互い違いに装着してください。

また、装着方向を同一の向きにセットすることで、出荷時の対象歪みから非対称歪みに変わり、歪みのニュアンスが変化します。

ダイオードを交換される場合には、右の写真のようにプラスとマイナスを互い違いに装着してください。



スペック

入力インピーダンス：1 M オーム

出力インピーダンス：10k オーム以上

消費電流：11mA

持続時間：55 時間（アルカリ電池使用、終止電圧 5.4V）

45 時間（マンガン電池使用、終止電圧 5.4V）

対応電圧：DC 9V ~ DC 12V